

『花を訪ねて： 梅』

裏高尾梅郷山行報告(2024年03月10日(日))

例会で“観梅”を何処にしようかと検討したとき、「裏高尾梅郷」と「吉野梅郷」(青梅市)の2案がでたが、“若木の吉野”(注1)より“古木の裏高尾”の方が良いだろうと「裏高尾」に決定した。当初3月10日の実施では若干遅いのではないかと危惧(小生のみか?)していたが、「高尾梅まつり実行委員会」が3月9日～10日を「梅まつり」の日に決めていたので、まあ兎に角行くことにした。更に三浦さんから『2月5日の降雪で200本の梅の木・枝が折れた』という情報もあったが、梅木は全体では一万本もあるというので、問題なかろうと思うことにした。当日の参加は伊藤(L)、神田、中島、柳沢、陽田の5名になった。

集合場所の高尾山口駅(注2)前に出てみると、休日でも快晴の好天気なので多くの登山者、ハイカー、トレラン達が集まっている。更にガイドに率いられた30人近くの外国人の男女、子供、乳母車に乗った幼児までがゾロゾロとケーブルカー駅の方へ歩いていった。我が方は予定の9時に全員が集合して直ちに出発した。『高尾梅郷』には『遊歩道梅林』、『関所梅林』、『天神梅林』、『荒井梅林』、『湯の花梅林』、『摺指梅林』、『木下沢梅林』(コゲサワ)、『小仏梅林』の八ヶ所がある。

スタートは自動車道を避けて、一旦山道へ入るがすぐ甲州街道に戻ってきて、「上柵田橋」を渡って『遊歩道梅林』にとりつく。肝心の梅の花は散っている花もあるがまだまだ満開の風情を保っている。「旧甲州街道」と並行した遊歩道は小さな「小仏川」沿いに上流へと左岸を歩いたり、右岸に渡ったりしながら進む。道の左手は高尾山の北斜面になっており、処々開けるがうっそうとした針葉樹林になりヒンヤリしていた。

9時50分、「天満宮跡」の『天神梅林』に着いた。ここは川の右岸で高尾山側だが開けていて明るかった。10時5分、テント売店などがある『高尾梅の郷まちの広場』に着いた、丁度高尾山の真ん中を貫通する「圏央道」の真下だった。ここで水分補給など15分小休止する。少し先に進むと静かな『湯の花梅林』があったので、ここで“証拠写真”を撮った。更に少し先に『摺指梅林』がある、ここでは部落の人達がテントを張り、附近の農産物の販売などを行っていた。

「日影バス停」を過ぎ、狭くて片側交互通行の中央線のトンネルをくぐった先で「木下沢入口」に着いた、ここから少し急になった坂を登った先、11時10分、『木下沢梅林』があった。丁度中央高速道の下である。初めて“関所”があって、“関銭”を取られた。ここが一番広く、山の斜面に多くの梅の木が植えられている。園内にはジグザグに歩道が作られていて、散策してから11時30分出園した。

坂を下って少し先の「梅の郷バス停」(旧:木下)からバスに乗ったが、京王バスは本日の「梅まつり」に備えて、初めから臨時増車してくれたので、座ることができて疲れた体には助かった。12時15分に高尾駅に戻り、駅の反対側にある「サイゼリア」で休憩・昼食そして歓談をした。約2時間色々な話をして、14時半に店を出て高尾駅に向った。小生が店にストックを忘れてしまったため、駅で流れ解散することになった。

以上 陽田

『注記』 1. 「吉野梅郷」(青梅市)は、2009年にウィルス病害に罹り、全木3万6千本を伐採した。2016年から再生植栽を開始して、ようやく鑑賞に堪えるまで回復してきた。

2. 高尾山口駅舎は隈研吾氏の設計で(2015年完成)、杉材を多用した構造になっている。

